

## コラム 59ー パール判事による米国の情勢判断

「効果的な禁輸がもっと早くから実施されなかったわけは、米国が当時日本に対して友好的であったからではない。当時、一般に行われた見解は、もしも全面的な禁輸を実施したら、日本は破滅に至るであろうということであった。そうなると、日本は戦うよりほか道はなくなる。しかし、そのときアメリカにはまだ対日戦争の危険を冒すだけの用意がなかった。米国としては、ドイツが大西洋方面において、アメリカを攻撃することができないという点が、十分確かめられるまでは、うかうかと太平洋において全面戦争を招来するようなことはできなかったのである。」